

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立誠道小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

自ら学び心豊かに たくましく生きる 児童の育成
 ◎めざす子ども像
 ・すすんで学ぶ子
 ・思いやりのある子
 ・最後までやりぬく子

今年度の指導の重点

- ・確かな学力の定着と学習意欲の向上
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・人権を尊重した仲間づくりと心の教育の推進
- ・特別支援教育の立場に立った授業づくり
- ・地域学習の推進

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- 全国
- 国語Aは全国・県平均と比べると正答率がかなり高い。ただし、苦手とする問は全国・県と同じ傾向にある。
 - ・ローマ字を書く「あさって」: 本校100%(全国41.8%)
 - 国語Bは全国・県平均と比べると正答率がやや低い。特に問題文の意図や資料の読み取り等が複雑になると正答率が下がる傾向があり、これは昨年度と同様である。
 - ・「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、表を基に自分の考えを書く: 本校25%(全国64.2%)
 - 算数Aは全国・県平均と比べて正答率が高い。計算等の基本的な処理はできているが、問いかげに合わせて説明や処理を求められたときに混乱する傾向がある。
 - ・テープ図を使った割合の意味の理解: 本校100%(全国74.4%)
 - ・「1÷0.7」の計算で、1と7に、「10」をかけてから割っても商が変わらないことの意味: 本校37.5%(全国68.5%)
 - 算数Bは全国・県平均とほぼ同じ正答率である。国語Bと同様に、問題文の内容を読み取り、見直しを立てて解決したり、問いに合う記述を求められると正答率が振るわない。
 - ・示された式に数値を当てはめたりして、ハードル走の目標タイムを求める式と答えを書く: 本校75%(全国50.5%)
 - ・ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求める: 本校25%(全国56.2%)

【学習状況調査の結果】

- 全国
- 基本的な生活習慣が身につけていっている。
 - 保護者や地域が協力的で、学校や児童のことに関心を持っている。
 - 学校に行くのは楽しいし、仲間と共に活動することに成就感・達成感を感じている。
 - 学習の目標やまとめが明示され、ノートにも記録している。
 - 家庭学習時間は目標の1時間を超えている児童がほとんどである。宿題は必ずするが、予習・復習や、自分で計画を立てて勉強することについては個人差がある。
 - テレビの視聴や、ゲームをする時間が全国と比べてやや長い傾向がある。
 - 図書室や図書館を利用して読書をする児童は2極化している。1日平均の読書時間は全国に比べて短い傾向がある。
 - 地域の行事に参加する児童の割合は多く、家族や、地域の人へ挨拶ができていると考えている児童が多い。
 - 難しい問題に挑戦することが好きと答えた児童が多い反面、新聞を読んだり、手伝いをしたり、感想や自分の考えをわかるように書いたりすることがあまりできていないと考えている児童の割合も多い。

成果と課題

- 全体的には各家庭で落ち着いた生活ができている。
- 自己肯定感や規範意識が高い。
- 家庭学習はほとんどの児童がきちんとできている。しかし、学年に応じた内容や取り組み方は研究が必要である。
- 「家での勉強の進め方」(家庭に配布)に各学年の勉強時間も明記したことで少しずつ意識が高まっている。
- 各学年で身につけることは確実に定着させ児童が興味を持って取り組めるような魅力的な授業作りをする。
- 国語・算数ともに、基礎・基本的な知識・技能はあるが、活用型の問題を苦手としている。
- 長い文章を読むことに抵抗があり、文意を汲み取りながら読むこと、目的や意図に応じて複数の内容を関連づけて読むこと、文章の構成を考えながら読むことができない。
- 目的や意図に応じて必要な内容を適切に書くことができない。

課題に対応した改善方法

- 家庭のルール(ノーメディアの取り組み等)を決め、勉強時間が確保できるようPTAと連携して取り組む。
- 新聞や新しい文章に触れる機会を授業で増やし、要旨をまとめる活動を取り入れる。
- 自力解決のための時間を確保し、自分の考えを説明したり、まとめたりするなどの書く活動を取り入れる。
- 授業中の発表の際、自分の言葉で説明させたり、話し合いの時間を意図的に作ったりする。(集会活動や、学活の活用)
- 学力・学習状況調査の問題(特にB問題)を授業中や週末の課題、朝や等で活用するなど、積極的に取り組む。
- 問題データベースや、到達度確認テスト等を、授業や家庭学習、朝学習や放課後補充学習、長期休業の宿題等で繰り返し活用する。
- 学力支援が必要な児童に対しては、放課後の補充学習を週3回行い、基礎学力の向上と定着を図る。
- 家庭学習に発展的な内容や授業に関連した予習・復習にも取り組むよう、自主学習を奨励する。
- 個人用辞書の活用や音読会などにも取り組む。
- 理科・社会科は実験機器や資料等の活用を重視した授業改善をし、週末課題等で復習に重点を置く。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 学力定着状況テストの実施(2月)
- 児童への学習・生活アンケート実施(学期1回)
- 授業評価シート(学習規律チェックカードや「授業ファイブ誠道版」)の活用(学期1～2回)
- 読書数調査(毎月)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 家庭学習の学年目標時間達成(100%)
- 3年生以上は全員が自主学習ノートをもち、家庭学習等で自主的に取り組む(100%)
- 日々の読書を「読書カード」に記録し、「おすすめ本20冊」では低・中学年は20冊、高学年は15冊を全員読む。
- 全学年到達度確認テストと過去問の完全実施(3月末まで)